

Resident Artist Performance

三陸

ONE COIN SERIES

ワンコインシリーズ | 三陸AIR/AIR
レジデンス・アーティスト・パフォーマンス

2026
2 SAT
14

演劇

小野と松岡
《海のものとも山のものとも》



2026
3 SUN
22

ダンス

田村興一郎
《浜菊舞く思いを、重いを、踊る。プロジェクト》



主催 | 特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター
共催 | 宮古市・宮古市教育委員会
企画・製作 | 宮古市民文化会館(令和7年度芸術文化事業)

助成 | 文化庁文化芸術振興費補助金 劇場・音楽堂等機能強化
推進事業(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)、
独立行政法人日本芸術文化振興会



文化庁

ワンコインシリーズ | 三陸AIR/AIR レジデンス・アーティスト・パフォーマンス

三陸・宮古市での二週間の滞在をしたアーティストが、この土地に刻まれた記憶と今を生きる人々の営みに向き合いました。海と震災の記憶、祭りと芸能、みちのく潮風トレイル。人や地域の歴史をリサーチし、言葉と身体表現による創作へと昇華させました。宮古で生まれた作品を、どうぞご覧ください。

Resident Artist Performance

三陸AIR/AIRは、アーティストが宮古市や三陸地域に滞在し、劇場を拠点に創作活動を行うアーティスト・イン・レジデンス事業です。地域の人々とアーティストが出会い、交流する場として、リサーチやワークショップ、滞在成果の発表などを行います。滞在中は、郷土芸能などの宮古・三陸ならではの文化体験や「学ぶ防災」といったプログラムも提供。地域とアーティストが互いに学び合い、文化が循環していく関係づくりを目指しています。

Price

チケット料金

1公演 **500円**

[全席自由]

- 当日500円増 未就学児可
- 車椅子席あり。

ご希望の方はお問合せください。

共通チケット **800円**

[全席自由]

- 前売のみ販売いたします。
- 両公演観覧可能です。

Ticket

チケット取扱い



1. Peatix ▶

<https://peatix.com/group/16423476>
※12月20日(日)より販売開始

2. 宮古市民文化会館

窓口・電話 | 0193-63-2511
(受付9:00-17:00/月曜休館)
<http://iwate-arts-miyako.jp>

Inquiries

お問合せ

宮古市民文化会館

窓口・電話 | 0193-63-2511
(受付9:00-17:00/月曜休館)
<http://iwate-arts-miyako.jp>

Access

アクセス

シネマ・デ・アエル

〒027-0089 岩手県宮古市本町2

- 宮古駅より徒歩13分
- 駐車場あり

宮古市民文化会館

〒027-0023 岩手県宮古市磯鶏沖2-22

- 宮古駅よりバスにて約10分
- バス:「宮古駅前(のりば②)」→
「市民会館前」下車 徒歩1分
- 三陸鉄道リアス線「磯鶏駅」より徒歩5分
- 会館及び磯鶏駅前に駐車場あり

2026
SAT
14
13:30 開演
受付・開場は開演の30分前

演劇



[会場] シネマ・デ・アエル

小野と松岡

『海のものとも 山のものとも』

ある日の午後、記憶を失った謎の生き物は、道を歩き続けた。歩き続けるうちにすれ違う誰かしらを取り、姿を変えて人々のなかに紛れようとした。漂流と滞在と移動は、土地の形、人々の一面、住むところ、それらの表面をすくいとる。紛れても違いは浮くのだ。そうして移動は再開する。

宮古に到着したとき、最初に山と森と海が近い。どのように住める場所を作ったか、土地の形質について簡単に伝えられたことを思い出します。滞在場所は斜面の上の方にありました。たとえば坂道は写真や映像には映りにくい。でも、そこを歩いた人の身体は覚えている。そんなことをとっかかりにして、滞在中で体験したこと、出会いや会話、考えたことなどを普遍性で置き換えてフィクションにしてみたとき、語りの効能が身体的に作用するか試みたいと思います。この演目は、謎の生き物の語りど、必死に擬態した場で聞こえてくる言葉が流れる景色のように交錯していくもので、音声作品は散歩したり、自室で寝転んだり、自宅の縁側で座りながらも楽しめるものとなる予定です。

戯曲 | 小野晃太郎

いっしょに考える人 | 松岡大貴

朗読劇出演 | みやこ市民劇ファクトリー有志

Profile

「小野と松岡」は小野晃太郎と松岡大貴のセット。小野は福島生まれ、宮城育ち。2020年『ねー』で第19回AAF戯曲賞大賞を受賞。2025年『ひとえに』にて第69回岸田國士戯曲賞最終候補。戯曲の多声性を用いて現在の物語を編み上げ「生存術としての劇作」を試行する。松岡は東京生まれ、埼玉育ち。豊岡演劇祭プロデューサー/コーディネーター。公立文化施設の事業担当、2020年「豊岡演劇祭」の立ち上げに参加。2022年よりプロデューサー。小野作品の共同創作者。プロデューサー、ドラマツルクを経て、『ひとえに』ではいっしょに考える人となる。

2026
SUN
22
14:00 開演
受付・開場は開演の30分前

ダンス



[会場] 宮古市民文化会館

田村興一郎

『浜菊舞』

第一部 葵ノ舞 (ホワイエ)

第二部 浄土ノ舞 (展示室)

第三部 浜菊ノ舞 (大ホール)

振付・演出・出演 | 田村興一郎
出演 | 岩城かのこ 大塚駿平
白濱風沙

「思いを、重いを、踊る。プロジェクト」をテーマに掲げ、宮古に滞在し、神輿渡御、郷土芸能、そして震災と街を学びました。宮古の花、ハマギクの花言葉『逆境を乗り越える。』というように、強く逞しく生きていく。そんな人達の思いをつなげて、宮古から咲くダンスパフォーマンスをここに届けます。

Profile

新潟出身。振付作家・ダンスアーティスト・DANCE PJ REVO主宰。横浜を拠点に振付作品を制作・上演をして活動中。アフリカ、ロンドンから招聘上演歴を持つ。横浜ダンスコレクションにて最優秀新人賞、在日フランス大使館賞など、多数受賞。セゾンフェロー。もの(object)と身体を組み合わせて表現に変換することでマテリアルとの対話を行い、社会と芸術を繋ぎ合わせて多様な価値観を創出している。若手育成のワークショップの企画運営や、福祉(障害)や保育の現場にも携わり、その派生からアウトリーチ事業を積極的に行うなど、幅広く活動を展開している。